

「毎日が運動会」

園長 鈴木勝子

そろそろ台風シーズンも終わりかと思っていたら、また台風です。このところ台風が発生すると、二つに一つの割合で日本に接近または上陸しているそうです。日本各地で台風の被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。十月になり、やっと残暑も落ち着き、過ごしやすい季節を迎えます。人間の体は不思議で清々しさを感じる季節は自ずと体を動かしたくなります。ましてや子どもたちは環境や生活にも慣れ、安心して過ごせるようになり、一人ひとりが伸び伸びと遊ぶ様子がそこかしこに見られます。

私はこの時期になると毎年、十数年前の運動会の出来事を思い出します。普段から人前に出るのを恥ずかしがる3歳児のY君ですが、運動会当日はやはりご両親がいらしていたり大勢の保護者の参加があったりと、いつも以上に躊躇してしまい、楽しく参加することができませんでした。それに対してご両親は、このままでは先が思いやられるというような感想を持たれ、週明けの連絡ノートに書かれていました。大人はつつい（運動会）当日が集大成のように思う傾向がありますが、大切なのはその日までのその子の様子です。当日は人前に出て行けなかったY君も当日を迎えるまでに、Y君なりにわくわくと心が躍る経験や嬉しかった経験もあれば悔しかった経験もあったかもしれません。親はつつい我が子が皆と同じように参加して、あまり外れることなく楽しそうに参加することを望みます。しかし誰にでも得手不得手はあります。大人なら苦手な事に対して回避したり、上手に方向転換する術を持っていますが、子どもはそうはいきません。そう思うと、どの子にも同じように頑張れというのは酷なものだと思いました。

園の行事のあり方としては、当園の保育教育の指針としている「新キリスト教保育指針」に「子どもが園生活で**それぞれの存在が大切にされ、充実した子どもの主体的な楽しい活動が保障されるためにはそれぞれの園での行事の意味を検討し**」とあります。このことを踏まえて、今年度の初めに職員間で“あそびのひろば”

の持ち方を検討しました。

0, 1歳児の乳児はできるだけ普段と同じ環境で、ゆったりとお家の方と関わる時間を確保してあげたい。そのような思いから、別の日に“あそびのひろば”を設定することにいたしました。また、2歳児以上の子どもたちには、身体を動かすのに気持ちの良い季節だからこそ、それぞれの発達年齢に応じた運動遊びを十分に経験して、身体の育ちのみならず、「できる。できない。」ではない、目には見えない心の育ち（非認知能力）の育ちにも繋げていきたい、と考え、昨年までのコーナーでの遊びに加えて、時間帯を区切って、歳児別のふれあい運動遊びも計画いたしました。初めての試みで、保護者の皆さまにはご迷惑をおかけすることがあるかもしれません。行事の趣旨をご理解いただき、当日は親子で楽しいひと時をお過ごしください。